

製品名: LATS1 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe21250**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

応用

希釈倍率	WB 1:2000-1:10000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:127kD;Observed MW:140kD

抗原情報

遺伝子名	LATS1 WARTS
別名	Serine/threonine-protein kinase LATS1;Large tumor suppressor homolog 1;WARTS protein kinase;h-warts;
遺伝子 ID	9113.0
SwissProt ID	O95835
免疫原	ヒト LATS1/WARTS の組み換えタンパク質

背景

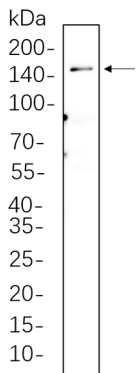
細胞局在: 細胞質。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、推定上のセリン / スレオニンキナーゼであり、有糸分裂装置に

局在し、初期の有糸分裂において細胞周期制御因子 CDC2 キナーゼと複合体を形成する。このタンパク質は細胞周期依存的にリン酸化され、前期後期のリン酸化は中期まで持続する。このタンパク質の N 末端領域は CDC2 と結合して複合体を形成し、H1 ヒストンキナーゼ活性が低下することから、CDC2/サイクリン A の負の調節因子としての役割が示唆される。さらに、C 末端キナーゼドメインは自身の N 末端領域に結合することから、分子内結合を介して複合体形成を阻害することで負の調節能を発揮する可能性が示唆される。生化学的および遺伝学的データは、腫瘍抑制因子としての役割を示唆している。これは、ノックアウトマウスを用いた研究で、軟部肉腫、卵巣間質細胞腫瘍の発生、および発癌性治療に対する高い感受性が示されたことで裏付けられている。

研究分野

-

画像データ



C2C12 細胞ライセートを 4~20% SDS-PAGE で分離し、膜を LATS1 ウサギモノクローナル抗体 (1:1000) でプロットティングした。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG(H + L)抗体を用いた。